

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 SIL 札幌日本語学校

1. 事業の趣旨・目的

緊急時（地震・火事・事故・病気など）や生活の場において外国人生活者が困った時（ゴミ問題・ライフラインなど）を想定し日本語指導ボランティアとして対応できるようにワークショップ形式の実践的な研修を行う。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月9日 (土) 13:00 ~ 16:00	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 鈴木博子 Petia 佐々木 木本みゆき	・講座開講の方針 ・募集について	講座方針の確認、後援者の選定、日程や内容の検討確認。周知方法について前年度を参考にし、話し合う。募集チラシの構成、文面について検討し、配布のしかたや配布分量についても意見を出し合う。
7月23日 (土) 13:00 ~ 15:00	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 鈴木博子 Petia 佐々木 木本みゆき	・講座内容について ・募集経過報告・講座準備手順について ・外部有識者講演依頼について	講座内容について回ごとに詳しく検討した。経過報告があり、開講までの作業項目の洗い出し、それぞれの役割分担などを検討。また、外部有識者への講演依頼とその内容について話し合った。
7月27日 (金) 15:00 ~	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 鈴木博子	・募集経過、会場確保について ・講座の予定につ	参加者募集、会場設定、講演依頼の経過報告があり、それを基に

16:30		Petia 佐々木 木本みゆき	いて ・模擬実習について	周知方法などを再検討した。また、模擬実習の回数や具体的なトピック、手順、指導留意事項などを検討した。
11月4日 (金) 15:00 ~ 17:30	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 Petia 佐々木 林真知子 木本みゆき	講座途中経過報告 模擬実習について	講座経過報告を受け、今後の内容について再度検討し、改善点などを考えた。模擬実習の内容や手順の確認、受講生のレベルに合致したものかどうかを話し合う。



【写真】

3. 養成講座の内容について

(1) 講座名 日本語ボランティアのための実践的研修 緊急時の支援「あわてないで！」

(2) 開催場所 札幌市民ホール かでる2. 7

(3) 学習目標

道内に在住している外国人に、生活者としての日本語・日本文化を指導するための基本的意識を持ち、緊急時の情報を題材に基本的指導スキル獲得を目指す。

(4) 使用した教材・リソース

当校が作成した『ボランティアのためのハンドブック』札幌市発行「くらしのガイド」、『みんなの日本語』、札幌市配布のごみ分別パンフレット、災害マップなど

(5) 受講者の募集方法

道内各市町村への募集要項配布・市内公共施設へのチラシ配布、及び市内、札幌近郊各大学国際交流センター、日本語ボランティアグループへの持参、もしくは郵送、ネットでの送信、配布

(6) 受講者の総数 8人

(出身・国籍別内訳 日本 8人)

(7) 開催時間数 (回数) 30時間 (全10回)

(8) 参加対象者の要件

市内・道内在住の退職者と日本語指導ボランティア希望者 (日本語母語者・非母語者を問わない)

(9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	9月17日 9:00-12:00	3時間	5人	①やさしい日本語について ②「日本の災害を見て」 ③外国人生活者に聞く ④講演「災害に備えて」	木本みゆき ラウ・メイ氏 サム・スリング氏 防災協会 防災・危機 管理専門官細川雅彦 氏
②	9月24日 9:00-12:00	3時間	5人	①「外国人教師による外国語の体験授業」 ②フィードバック (自己紹介含む)	北海道大学工学部客 員教員 ペティア佐々木氏 島治美
③	10月1日 10:30-14:30	3時間	4人	①講演「札幌における国際 交流事情と緊急時の取 り組みについて」 ②救急医療の会話につ いて考える	(公財)札幌国際プラザ 後藤道氏・松本知佳氏 木本みゆき
④	10月8日 13:00-16:00	3時間	7人	地震の時の言葉 (アナウ ンス等) について考える	木本みゆき
⑤	10月15日 13:00-16:00	3時間	5人	・ゴミのルール、言葉につ いて考える ・模擬実習について	島治美

⑥	10月22日 13:00-16:00	3時間	5人	・SNCの活動について ・模擬実習のためのモデル授業 ・紛失時における表現について考える	西山順子 島治美
⑦	11月5日 11:00-15:00	3時間	4人	①講演「事故と犯罪について」 ②次回模擬実習（「紛失」）の教案について考える	札幌中央警察署 生活安全課 巡査部長 市村比沙子氏 島治美
⑧	11月12日 13:00-16:00	3時間	5人	・受講生による模擬実習（「紛失」） ・フィードバック	木本みゆき
⑨	11月19日 9:00-12:00	3時間	2人	・病院の言葉・病気表現について問診票をもとに考える ・次回模擬実習について	木本みゆき
⑩	11月26日 13:00-16:00	3時間	4人	・受講生による模擬実習（「地震時の情報」） ・フィードバック	島治美

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- * 日時、回数、開催場所: おおむね満足との回答が多かった。
- * ワークショップ形式の講座について: お互いについて考えていくことにより、さまざまな意見や捉え方を知ることができてよかった。又受講生同士による情報交換もできた。
- * 講演など: 特に外国人教師による直接法の授業が大変ためになった。その他の講演も回答者のほとんどが満足、やや満足であった。
- * 講座内容: 生活の問題点、緊急時の対処の仕方などをトピックにしたことが新鮮に感じたようである。また、実習を複数回設定したことも好評であった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

外国人生活者にとって困ると思われる事項を受講者全員で検討し、その対処のための情報を確認し、その情報をどのような日本語を使用して伝えていくかなど全10回にわたり研修していった。外国人の立場に立って考えるところから始め、どんなことばがわかりやすい日本語かを話し合い、意識してもらった。

模擬実習も、はじめはイメージがつかめずに実習に臨んでいたが、二回目の実習では、受

講生それぞれに得るものがあったようで、成長がみられた。

また、今年は東日本大震災が発生したこともあり、受講者自身も講座内容に、危機感を持って取り組むことができ、命を守る情報とその伝え方の重要性を再確認した。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

受講者を中心に、日本語ボランティアや国際交流の外国人への対応についてのスキル向上のサポートをしていく必要がある。さらに他のボランティア団体との連携も深め、このような講座を開く機会を多くしたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

国際交流ボランティア団体等や公的機関との関係を深めることで、お互いの立場を認識でき、緊急時あるいはトラブルに巻き込まれた時に協力体制をとる必要性を感じるようになった。

② 研修後の人材活用

受講生の各日本語ボランティア団体においてのさらなる活躍が期待できる。当校の他の委託事業に早速稼働を依頼し、活躍してもらえたことは大変有意義であった。

(12) 今後の課題

北海道は他都府県に比べ、在住する外国人が少なく、広く点在しているため、外国人に対する意識が低くなりがちである。一団体のみで、潜在的に外国人をサポートしたいと考える人を掘り起こすには限界があるので、他機関と連携が取れると良いと思われる。連携を取る役割については、やはり公的団体が主導的な立場で積極的にまとめて行ってほしいと思う。

北海道内、札幌市内の緊急時における外国人対策は情報も少なく、まだ遅れが目立つ。せっかく翻訳された情報があっても、ボランティアに周知されず、活かしきれていない場合もある。今後も引き続き生活上での情報などの周知に関して改善点などを提案していきたい。